



北浦っ子

令和3年度学校だより 12月号
12月10日発行
延岡市立北浦小学校 No13
文責：校長 甲斐 憲一

楽しかった修学旅行！

6年生が修学旅行に行ってきました。今年度もコロナの関係で訪問先を鹿児島から宮崎市に変更し、宮崎県の良さをじっくり味わえる行程に工夫して実施しました。

まず延岡駅から特急ひゅうがに乗り込み、普段なかなか乗らない電車での旅を味わいました。同じ車両に他のお客さんも乗車していたので電車でのマナーもしっかり守ることができました。

電車は直接宮崎空港へ到着し、空港見学と、宮崎特攻の語り部の方に講話をしていただき、実際に慰霊碑まで行き、戦没者への慰霊を行いました。戦没者の石碑には1名北浦町の方の名前が記されており、身近で戦争との関わりがあったことに気づくことができました。戦争の恐ろしさを知り、戦争が起こらない世の中にするという意識をもつ上でとても貴重な時間となりました。

慰霊碑を去り、次は宮崎駅周辺での班別自主学習です。子供たちは事前に調べ、行きたいところなどの行程計画を立てて、班ごとに目的地へ向かっていきました。まずは、昼食を自分たちで食べなければなりません、駅近くの店は自分たちの想像する値段と違っていたみたいで、安いところを探す班が多かったようです。

班別自主学習が終わり、それぞれの班は駅前アミュプラザ広場に集合し、北浦PR活動を行うべく、北浦ソーラン用の法被を羽織り、事前に作ったPR用の冊子やお土産のお茶などを準備し、いざ戦闘モード！

初めは声をかけても相手をしてくれないとか恥ずかしいとか言っていましたが、一人うまいくくと自信が湧いてきたのか、積極的になり、PR活動も盛り上がってきました。割り当てられたパンフの配布をうまくできない人がいれば、みんなで協力して渡す姿も見られ、さすが6年生だなと思ったところでした。



【延岡駅でのサプライズ見送り】



【アミュ屋上の神社にて】



【PR活動開始！みんなでがんばるぞ！】



【晴仁くんPRチャレンジ中！】

子供たちは修学旅行前にPR用のパンフレットを自分たちで作成しました。パンフレット用の写真を直に撮りに行ったり、説明の文章をみんなで考えたりして、北浦の良さが分かるパンフレットに仕上げました。なかなか素晴らしいパンフレットができあがりだったので、増刷りして今後は観光協会等にもおいてもらえるといかなと思っています。

今後も北浦を愛する、誇りに思える子供たちの育成のためにこのような活動を積極的に行っていきますので、ご協力よろしくお願ひいたします。



【PR用のパンフレットの一部】

能を堪能！

文化庁主催で公益財団法人 片山家能楽・京舞保存財団による能楽公演「舍利」が12月6日(月)に行われました。

なかなか地方では見られない能楽の公演ということで、初めて見る児童がほとんどで、私もテレビでしか見たことがありませんが、大変興味深く鑑賞することができました。

まず、【舍利】について絵本語りをを行い、どんな内容かをわかりやすく説明していただきました。

次にワークショップで実際に能楽師が話す言葉【謡】を児童全員で発声し、その声に合わせて【仕舞】を行っていただきました。

最後に、片山九郎右衛門さんを中心とした能楽師が能【舍利】を披露しました。能独特の【謡】【仕舞】【囃子】など迫力があり、子供たちも目を輝かせながら、鑑賞していました。素晴らしい公演に感動しました。日本の伝統文化を大切にする気持ちが育ってほしいと思います。

今回公演を行った片山家能楽・京舞保存財団は延岡城山で行われるのべおか天下一薪能でも出演されているということですので、是非来年親子で城山へ足を運ばれるとよいかと思います。

北浦でも伝統的な芸能として【神楽】が舞われます。高千穂や椎葉に赴任しているときは、見に行っていました。少子化・高齢化の影響で、伝統を守る、継続することが年々難しくなっています。伝統芸能の良さ・地域の良さを感じることが伝統文化の継承につながっていくものと思いますので、学校での授業においても、様々な教科の中でしっかりと日本の伝統の良さを味わわせていきたいと思っています。



【片山九郎右衛門さん】



【牙舍利を奪った足疾鬼】



【牙舍利を奪い返す韋駄天】

※【舍利】とは、寺に納めているお釈迦様の牙舍利（歯）を鬼（足疾鬼）が盗んで逃げ、それを守護神韋駄天が取り返すというお話